

# 神奈川県観光振興計画の見直し（素案）の概要について

## 1 計画見直しの趣旨

現行の「神奈川県観光振興計画」（以下「計画」という。）は、平成 28 年度から平成 30 年度までを計画期間として、平成 28 年 3 月に改定したものである。しかしながら、その後の観光施策を取り巻く状況の変化に対応していくため、今回、計画の目標値の一部を修正することや、新たな取組を計画に位置づけることなど、計画の一部見直しを行う。

まず、計画の目標値の修正として、本県への外国人旅行者の訪問者数の目標値を上方修正する。

政府は、平成 29 年 3 月に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、訪日外国人旅行者数の 2020 年の目標値を、2,000 万人から 4,000 万人に上方修正している。そのような中、本県においても、平成 27 年度から国際観光課を設置し、外国人観光客の誘致促進に積極的に取り組んできた結果、本県への外国人旅行者数は平成 28 年に 231 万人に達し、計画において平成 30 年の目標としていた 201 万人を上回るに至った。

そこで、外国人旅行者の訪問者数の目標値を上方修正するものである。

次に、計画改定後の新たな取組を計画に位置付ける。

例えば、平成 28 年 6 月に設置した「神奈川県観光魅力創造協議会」や、平成 29 年 1 月に設置した「神奈川県観光客受入環境整備協議会」、さらに平成 29 年 6 月に成立した住宅宿泊事業法など、計画改定後に、県の観光施策をオール神奈川で推進していくに当たって大きな影響を与える新たな取組や課題などについて、新たに計画に位置付けるものである。

## 2 計画見直しの内容

### （1）目標値の見直し

外国人旅行者の訪問者数にかかる目標値の上方修正

#### 【修正の概要】

2017 年（平成 29 年）目標値	192 万人	251 万人
2018 年（平成 30 年）目標値	201 万人	298 万人

< 参考：各年における目標値の推移 >

年	日本全体の外国人旅行者数（予測）	神奈川県への訪問率（目標値）	神奈川県への訪問者数（目標値）
2016年	2,400万人	9.6%	231万人
2017年	2,728万人	9.2%	251万人
2018年	3,100万人	9.6%	298万人
2019年	3,523万人	10.2%	359万人
2020年	4,000万人	11.0%	440万人

（参考）

（２）計画改定後の現状・課題の変化及び計画に位置付けていない新たな取組の追加

ア 神奈川県観光魅力創造協議会

ラグビーワールドカップ 2019™及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、国内外から観光客を誘致するため、平成 28 年 6 月に「神奈川県観光魅力創造協議会」を設置し、官民が連携して、県内の観光コンテンツの発掘・磨き上げや、周遊ツアーの企画・商品化に取り組んでいることから、協議会による取組を計画に位置づける。

イ 神奈川県受入環境整備協議会における議論を踏まえた更なる受入環境整備事業の推進

平成 29 年 1 月に「神奈川県観光客受入環境整備協議会」を設置し、県内における観光客の受入環境を官民が連携して整備していくための事業内容や役割分担等について、全 6 回の議論を行った。

そこで、協議会での議論を踏まえて、官民が連携して、更なる受入環境整備事業の推進を行っていくことを計画に位置づける。

ウ 住宅宿泊事業法の成立などに伴う民泊の健全な推進及び「セレクト神奈川 100」によるホテルの誘致による、宿泊インフラの充実

平成 29 年 6 月に成立した住宅宿泊事業法などに基づくいわゆる民泊サービスの健全な推進、「セレクト神奈川 100」によるホテルの誘致などにより、宿泊施設の充実・多様化を図る。

## エ 宮ヶ瀬湖周辺地域の活性化

平成 28 年 12 月に認定された地域再生計画に基づき、首都圏最大の宮ヶ瀬ダムと豊かな自然に恵まれた周辺地域の魅力を最大限に活用していくため、遊覧船のリニューアルや、湖の特性を生かした「遊び・アクティビティ」の充実などを行い、地域全体の魅力向上と、観光を通じた地域活性化を推進する。

## オ 超過課税を活用した、東京オリンピック・パラリンピックに向けた幹線道路の整備

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催の機会を捉え、超過課税を活用し、東京オリンピック・パラリンピックに向けた幹線道路の整備に取り組んでいく。